
朱い空

早川朱音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朱い空

【Nコード】

N7232U

【作者名】

早川朱音

【あらすじ】

叶わない願いを抱いた少女と、それを叶えようとした少年のお話。

始まり

見上げれば一面の朱い空に、ただ、ただ見とれていた。

枯れたはずの涙が頬を伝うのを感じたけれど、拭うことも忘れて見
つめ続けた。

私はずっと、目を閉じ、耳を塞ぎ、何も感じないようにしてきただ
けだ。

何もかも失ったつもりで、この手で握めるものは、今までもこれか
らも、何もないと諦めていた。

私の負けだ。

潔く認めよう。

目を開き、耳を澄まし、私の全てで感じよう。

あなたの笑顔を、あなたの声を、あなたの言葉を。

何も恐れることはない。

願いは、今、聞き届けられた。

祈り

少女は祈りを捧げていた。

雪が積もった地面に膝をつき、顔の前で手を組み合わせ、花の咲いていない花壇の前で、頭を垂れて祈っていた。

空には粉雪が舞っており、少女の頭にうつすらと雪が積もっていることから、祈り始めて長いことが窺えた。

少女は暖かい恰好はしていたが、組み合わせられた手は手袋をしておらず、寒さから顔と同様に赤くなっていた。

「リリーベル、そろそろ朝ごはんの時間だよ。」

ざくざくと雪を踏みしめてやって来た少年は、少女に穏やかに声をかけた。

対する少女―リリーベルに返事はない。祈りに集中していて聞こえていないのだ。

それを知っている少年は、リリーベルの頭に積もっていた雪を優しく手で払いのける。

少年も暖かい恰好はしていたが手袋をしていなかった。

リリーベルは頭に触れられて初めて少年の存在に気付いた。

「トール、朝ごはんの時間には早い。」

リリーベルは不満そうな声で、祈りを止めて立ち上がり、膝についた雪を払った。

「祈りの時間には長いんだよ。」

少年―トールは苦笑して言いながら、リリーベルの手を取った。

悪魔を迎えに来る天使。

リリーベルはトールに手を引かれて歩きながらそんなことを思った。

トールはいつも朝早くに家を抜け出して、花壇にお祈りに行くリリーベルを迎えに来る。

優しいから放っておけないけど、祈ることを止めさせようとは思えない。

やりたいようにさせてくれて、リリーベルの体に支障をきたさない程度に気遣ってくれる。

天使というのはその性格もだが、リリーベルと正反対の見た目からも連想しやすい。

金に珊瑚色の混じる髪―こちらではストロベリーブロンドというらしい―に、青磁色の瞳。雪よりも白い透き通るような肌、整った天使のような愛らしい顔立ち。

男の子に愛らしいというのも変かもしれないが、事実そうなのだか

ら仕方ない。

リリーベルより一つ年下ながら、兄のように包み込むおらかさは、普段人を寄せ付けないピリリとした空気をまとっているリリーベルをも優しく突き崩していく。

自分のことを悪魔というのも大げさな例えではない、とリリーベルは思う。

この土地の者にはない烏よりも黒い髪、黒い目、肌も黄色みを帯びており、やはりこの土地には馴染まない色だ。

誰かれ構わず愛想を振り撒く気はないし、元から喜怒哀楽が顔に出にくく、扱いにくいだろうと自分でも思う。

異端者、とまではいかないが、よそ者。得たいが知れないものは「内」にいる者には恐怖であり、排除の対象、悪魔のようなものだ。

そんな自分を受け入れて毎朝迎えに来てくれるツールには本当は感謝していた。

その気持ちを上手く表現できずに、ぶっきらぼうな返事しかできなかったが、迎えが来た時はすぐに帰ろうと、自分の中で決めていた。

この手も、とリリーベルは思う。

迎えに来る最初の頃は拒んでいたのに、いつのまにか躊躇いなく繋いで帰るようになってしまった。

自分の思いを貫く、岩を穿つ水滴のような柔らかな強さがツールにはある。

そういうところが困る、とりりーベルは思う。

雪を踏みしめ、二人は無言で少し速めに歩く。

帰りはいつも寒さから自然と足が速まるのだ。

繋がれた手は互いに冷えきっていたけれど、だんだん熱が伝わって温もり始め、汗ばんでくる頃には家に帰り着いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7232u/>

朱い空

2011年9月26日21時49分発行